



たわれじ



臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療施術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する。

初期臨床研修

理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師として必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針

- ① 臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を習得する。
- ② 人としても信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える。
- ③ チーム医療の一員としての役割を理解し、他職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける。
- ④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。
- ⑤ 地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる。

飯南病院



1か月お世話になりました！

2年次研修医 尾崎晃太郎

7月の一か月間、飯南病院での地域医療研修でした。短い間でしたが指導医の先生をはじめスタッフの皆さんには大変お世話になりました。

私は出雲市出身で、大学が鳥取大学なので人生のほとんどを山陰で過ごしてきましたが、私の記憶では飯南に来たのは初めてでした。(両親によると、小さいころにステーキを食べに来たことがあるそうです笑)。同じ山陰といえど「こうまで雰囲気が違うものか」と驚かされる毎日でした。患者さん、医療スタッフ、どんな方と接しても皆さんの笑顔が絶えないのです。そこに住んでいる人たちの雰囲気というのは一言で表せるものではないと思いますが、少なくとも自分はとてもいいところだなと感じました。

また、学ぶところも多くありました。飯南病院の立派な先生方からはもちろん、患者さんから多くのことを学ばせていただけたと思っています。大きな病院とは違って、「はじめまして」から退院、その後の外来まで経験させていただける機会は研修医にとっては滅多にありません。先生方の手厚いサポートのおかげです。何回も患者さんのベッドの横に行ってはたくさんのお話を伺い、松江の病院では気付けなかったことにも気付けたのではないかと思います。そんな中で、皆さんの笑顔が見られた時には、言葉にできない喜びも味わわせていただきました。

私は来年度以降、外科医として山陰で働こうと考えています。その時も変わらず、患者さんのことを第一に考えて働く医師でありたいと考えています。

飯南病院で多くを学べ、皆さんには感謝しかありません。地域医療研修を飯南病院で行うことができ、本当に良かったと思っています。ぜひ、後輩にも伝えたいと思います。

ありがとうございました。



2年次研修医 柳田 俊一

研修医2年の柳田俊一と申します。研修医は、地域医療実習として地域病院を1か月間ローテーションすることが必須で、私は飯南病院での実習を選択しました。初めは、慣れない環境に戸惑い、分からないことだらけでしたが、飯南病院のスタッフの方々がとてもフレンドリーに接して下さり、わからないことを何度聞いても嫌な顔一つせず教えてくださいました。実習の1週目が終わる頃には、アットホームで、居心地の良い雰囲気の飯南病院が、大好きになっていました。地域病院ならではの、訪問診療、看護、リハビリなどの医療を経験し、患者さんの病気だけでなく、価値観、生活背景にまで考慮した医療がそこにはありました。また、飯南病院は大病院に比べると、医療設備や科が限られていることもあり、一人の医師の能力が、地域の医療水準を大きく左右します。それは、責任が重く、怖いことでもありますが、自分の学んだことを反映させやすいという裏返しであり、また、その結果を自分で確かめ、試行錯誤していけるというのは地域医療ならではの面白さであるということ学びました。個人的な話ですが、ダニを合計9匹も切除したことは自信になり、先生からは「ダニは柳田に任せろ」と言われるほどになりました(笑)。

最終日には、ダニ咬傷についての講義と、大学時代から続けているクラシックギターをスタッフの方々に披露しました。喜んでいただけたようで、「また、戻ってきてね。その時はギターも聞かせてね。」と温かいお言葉を頂戴しました。皆様のお陰で、伸び伸びと、かつ、有意義な実習をすることができました。ここで学んだことはこれからの生活に活けると確信しています。素敵な飯南病院の皆様に、心より感謝申し上げます。



初期臨床研修オンライン説明会を開催しました

「医学生の皆さんに当院の魅力を伝えたい」という想いで、7月14日(水)に初期臨床研修オンライン説明会を開催しました。

いつも参加してくれる学生さん、そして初めて参加してくれた学生さん…。

短い時間ではありましたが、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごさせていただきました。少しでも、松江市立病院の初期研修に興味を持ってもらえたら嬉しく思います。



行ってきました

隠岐病院



2年次研修医 新井 朝子

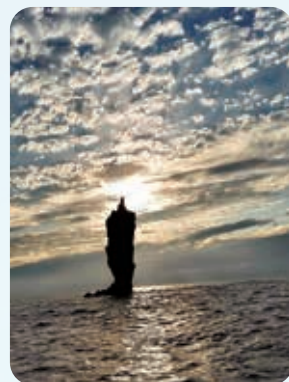
7月に隠岐病院で研修をさせていただきました。

主な研修内容は、総合診療科の初診外来と救急外来、病棟業務でした。

松江市立病院は規模が大きく各専門科が充実しており、総合診療科外来や救急外来で入院や再診が必要と判断した場合、該当科にその後の診療を依頼することがほとんどです。しかし隠岐病院では科が細分化されているわけではなく常勤医のいる科も限られているため、外来で自分が最初に診た患者さんがその日に終診とならなかった場合、その後の入院管理もしくは外来フォローも自分で行うこととなり、その症例は感染症、循環器、脳神経疾患など様々な領域の内科疾患から皮膚科疾患などまで多岐に渡ります。このように幅広い症例を自分が初診から継続して診ていくというのは小規模な地域病院ならではの経験であり、大変勉強になりました。

また、隠岐病院で対応できない症例は本土へ搬送となります。離島であるため天候なども考慮しつつ搬送の判断をしていく難しさを感じたり、実際に搬送の様子を見たりしたことも貴重な経験でした。

地域研修での経験を、これからも活かしていけるように頑張ります。



隠岐の島での研修を終えて

2年次研修医 濱口 聖大

6月の一か月間、隠岐の道後にある隠岐病院で研修させていただきました。隠岐病院では総合診療科として日中は外来や入院患者さんの診療にあたり、午後や夜間は救急外来をメインにしていました。隠岐病院は若手の先生の教育がとても熱心で、患者さんを1から診療・検査・治療しその後のフォローまでしっかりと行うよう研修をさせていただき、離島医療の難しさや楽しさを知り大変勉強になりました。また休日は隠岐の島前道後の島々をのんびり一人で観光し大自然を満喫しました。特に海鮮系のご飯や、ろうそく塔などの観光名所は今でも強く記憶に残っています。隠岐病院研修は、いろんな人に是非一度は隠岐の医療や島のすばらしさを感じてほしいと思える一か月でした。今後離島医療に従事する機会がありましたらこの学びを生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。



緩和ケア・ペインクリニック科の七夕会に参加しました

緩和ケア・ペインクリニック科で七夕会が行われ、2年次研修医の柳田先生がお得意のギター演奏を披露されました。

患者さんも職員もうっとりするほど、とても素敵な音色でした！





私が研修医として働き始めた頃は、「研修医の地位は下の下の下、実験動物やその辺を走っているゴキブリより下だから」と言われたものでした。

初日から患者さんを当てられ、したことがない検査オーダー、治療方針決定を求められることに戸惑い、右往左往しているうちに気が付いたら半年経って、少し経験値が上がったことを実感したものでした。

2年目の研修先はじゃんけんで決定し、一番負けの私は、縁もゆかりもない遠い土地で研修をすることが決まってしまう、途方に暮れたことを覚えています。(これはこれで勉強になり、その土地の方々に親切にいただき、今もお付き合いがあり良い思い出となっています)

今の研修医の皆さんは系統だったカリキュラムのもとでの研修で、私も受けてみたかった、羨ましいなと思います。ただ、与えられるままでダラダラとしていけば、2年の研修も無駄となってしまいます。与えられたものをどう身に付けどう活かすか、それは自分次第だと思います。

研修医の先生方が大きく成長する姿を見るのは私たち指導医の喜びでもあります。一緒に頑張っていきましょう。

研修風景

「結紮王」に向けて練習を開始しました!

鳥取大学医学部附属病院で開催される「結紮王」に向けて、練習を開始しました。

形成外科の指導医の先生からアドバイスをいただきながら練習を重ね、ぜひとも優勝目指して頑張りたいと思います。



CPC（臨床病理検討会）を開催しました

CPC（臨床病理検討会）を開催しました。今回は、循環器内科の症例が示され、研修医が臨床経過から見た考察を発表し、ディスカッションを行いました。診療科の先生方からご質問、ご意見をいただき非常に有意義な時間となりました。

あらためて、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



松江市立病院
Matsue City Hospital

〒690-8509
島根県松江市乃白町32番地-1
TEL(0852)60-8000(代)
FAX(0852)60-8005